

平成 25 年（2013 年）3 月期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社
 代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 片岡 史朗
 問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治
 : (TEL) (06) 7635-1636

(1) 当期の連結経営成績に関する定性的情報

当連結会計年度（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）の当社経営環境は、欧州債務危機に端を発する欧米景気の回復遅れや、中国をはじめとするアジア新興国経済の減速、および日本国内景気の足踏み等、全般的に盛り上がり欠ける厳しい状況が継続いたしました。

このような中ではありますが、当年度よりスタートしました新中期経営計画「GS-III」に掲げました、①環境向上資材・ヘルスケアなど世界的成長が予測される分野への重点投資、②アジアを中心とした海外事業の拡大とそのための基盤整備、等からなる経営戦略に従い、持続的成長を実現するためのアクションプランの推進に努めました。その一環から当期は、

- ベトナム・ダナン市での新規縫製工場立ち上げ(2012 年 10 月)
- 同・ホーチミン市への現地法人設立申請(2013 年 2 月)

を実行しました。

また、年初以降本格化しました急激な円安により、原材料、加工賃等の各種コストアップが発生しはじめており、その対策に努めております。

当連結会計年度の経営成績は、売上高は 1,087 億 6 千万円(前期比 34 億 5 千 8 百万円、3.1%の減収)、営業利益は 33 億 5 千 8 百万円(同 1 億 6 千 8 百万円、4.8%の減益)、経常利益は 34 億 5 千 2 百万円(同 2 億 5 百万円、5.6%の減益)、当期純利益は 21 億 3 千万円(同 6 百万円、0.3%の減益)となりました。

【連結業績】

(単位：百万円)

	当 期 (平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月)		前 期 (平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月)		増 減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	108,760	-	112,218	-	▲3,458	▲3.1%
粗利益	8,540	7.9%	8,499	7.6%	+41	+0.5%
営業利益	3,358	3.1%	3,527	3.1%	▲168	▲4.8%
経常利益	3,452	3.2%	3,658	3.3%	▲205	▲5.6%
当期純利益	2,130	2.0%	2,136	1.9%	▲6	▲0.3%

(注) 当社の連結子会社は、可樂麗貿易(上海)有限公司の 1 社であり、同社の連結累計期間は平成 24 年 1 月 1 日から同 12 月 31 日となっています。

【単体業績】

(単位：百万円)

	当 期 (平成24年4月～平成25年3月)		前 期 (平成23年4月～平成24年3月)		増 減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売 上 高	108,307	-	111,533	-	▲3,226	▲2.9%
粗 利 益	8,379	7.7%	8,338	7.5%	+41	+0.5%
営 業 利 益	3,311	3.1%	3,445	3.1%	▲134	▲3.9%
経 常 利 益	3,397	3.1%	3,578	3.2%	▲181	▲5.1%
当期純利益	2,088	1.9%	2,075	1.9%	+13	+0.6%

以下< >の中の名称は(株)クラレの商標です。

(2) 営業の概況

【繊維関連】(減収、増益)

売上高は419億円。前期比28億円(6.4%)の減収。

(衣料分野)

- スポーツ分野は、学校体育衣料向けに生地や縫製品販売が順調に拡大しました。更に、アパレル向け高機能素材の販売や縫製品の販売も、生地から製品までの一貫生産体制の拡大により大きく伸長しました。
- ユニフォーム分野は、サービス向けは堅調に推移しましたが、ワーキング向けが夏場以降続いたアパレルでの在庫調整の影響により苦戦し、全体として生地、製品共に数量が伸び悩みました。
- ブラックフォーマル分野は、期前半のアパレルでの在庫調整や、低価格化志向の影響により、数量が伸び悩みました。
- 上海現地法人では、テキスタイルビジネスの拡大が日中関係の悪化もあり遅れ気味に推移していますが、テキスタイルから縫製までの一貫体制の構築に注力しています。

以上の結果、衣料分野は減収、微減益となりました。

(資材分野)

- スポーツ靴用資材、メディカル関連資材は、好調な需要に加え顧客との素材開発の取組みが貢献し、順調に拡大しています。
- 産業資材は、高強力繊維<ベクトラン>、FRC(繊維補強セメント)用ビニロンの販売が堅調に推移しましたが、一般産業用分野が国内市況低迷により苦戦しました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、ランドセル用途はほぼ前年並みとなりましたが、IT 関連産業分野の低迷から工業資材用途が低調に推移しました。
- ワイピング用クロスをはじめとする不織布関連は、国内競合が厳しい中苦戦しました。

以上の結果、資材分野は、減収、増益となりました。

【樹脂・化学品・化成品関連】（微減収、減益）

売上高は668億円。前期比6億円(0.9%)の微減収。

- 溶剤等化学品関連は順調に拡大しましたが、環境関連資材含むその他の分野は、国内需要減、中国経済成長鈍化の影響を受け減収となりました。

（3）平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

当社を取り巻く経営環境は、欧米景気や中国をはじめとする新興国経済の回復状況に大きく依拠しており、依然不安定且つ不透明な状況にあると認識しております。

このような認識ではありますが、「GS-III」アクションプランに掲げた基本戦略に従い、為すべき施策を足元の環境変化を見据えながら着実に実施し、市場の開拓に積極的に取り組んで参ります。また、急激な円安に伴う原材料のコストアップに対しましても、価格戦略やコスト削減の努力を通じて収益の確保に努めております。

これによる次期連結会計年度の業績予想は、下表の通り増収、増益を予想しています。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期公表 (対前期比)	1,130 (+3.9%)	35 (+4.2%)	35 (+1.4%)	22 (+3.3%)

<注記>上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

以 上